

1 単元名 地震からくらしを守る ～鳥取市の防災への取り組みから学ぶ～

2 単元について

(1) 単元の価値と魅力

本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年において、次のように位置づけられている。

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

本単元では、関係機関が、地域の人々と協力して、災害から私たちの生活を守るために日々努めていることを理解する。さらに、自らが地域に住む一員として、地域社会の人々の安全な生活の維持について関心をもち、普段から考え協力しようとする態度を養うことを目的とする。

我が国は、その地形条件などから自然災害の多い国である。台風や大雨によって、暴風雨、洪水、土砂崩れ、土石流などの災害は毎年各地で起きている。このほかにも、地震、津波、噴火など予知できない災害と私たちの生活は「同居」している。そのために、国や地方公共団体では、いつどこで災害が起こっても、被害を最小限に食い止めることができるよう、防止策をとっている。国や地方公共団体の事業や対策だけでなく、地域住民一人一人が備えを行うとともに、自然環境の変化や前兆を察知し、危険回避能力を発揮して自らの生命や財産を守る行動が求められている。こうした観点から重視されるのが、自然災害に対する防災教育である。ただし、防災教育は、社会の変化に対応する観点から状況に応じて日々改善していく必要がある。そこで、社会科では、自然災害時に公助・共助・自助でそれぞれがどのように対応し行動することが大切なのか、また地域の一員として地域の仕組みや人々のかかわりについて理解することが大切になる。これらを学習することで、自らのより良い生き方を考えていくという社会科の目標とする公民的資質の基礎につながると考える。

そこで、本単元では、近年日本で起きた大震災と鳥取県で起きた大震災をきっかけとして、自分たちの生活と防災への取り組みとのかかわりについて調べていくこととする。近年起きた大震災とは、今から20年前、淡路島北部沖の明石海峡を震源として、M7.3の兵庫県南部に地震が発生した阪神・淡路大震災。そして、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波、およびその後の余震により引き起こされた東日本大震災のことである。これらの大震災は、まさに未曾有の大災害であった。この2つの大震災から、大規模広域災害時の「公助の限界」が明らかになるとともに、自助・共助による「ソフトパワー」の重要性が言われている。また鳥取県でも、73年前鳥取大地震が起き、大きな被害があり、それから何度か大きな地震が発生している。これらの大地震があった事実をきっかけとして、東日本大震災の際、岩手県釜石市内の児童が自発的に避難したり、また、地域の住民とともに避難活動を行ったように、地域コミュニティが一緒になって避難をしたり、避難所の運営をしたりするような様々な自助・共助の事例が見られた。これらの行動は、普段からの避難訓練や先人の知恵や言い伝えをもとに自分の命を守ることの重要性や津波の恐ろしさを伝える防災教育が実を結んだものと考えられる。地震はいつでもどこでも起きるものと考え、普段の備えが必要である。「それま

で、その時に、その後」という視点で、公助と共助の仕組みと自助でどのように行っていくことが大切か考えさせていきたい。

(2) めざす子どもの姿について

本単元におけるめざす子どもの姿として、「社会的事象や資料をもとにして、自分の考えを他者に伝えることで、自らの考えをより良い方向性へと考えることができる子ども」「災害場面において、よりよい社会の形成を目指して行動しようとする子ども」を念頭に置き、授業を行っていく。

本学級児童は、校内や校区の中の社会的事象を今まで体験や見学を通して学習してきた。前時のごみの学習では、「自分たちの生活から出たたくさんのごみは、どうなるのか」という学習課題から、学習を通して自分たちの身近な生活とのかかわりについて考えた。学習の中で、調べたことをまとめて発表する活動を通して、自分たちの生活とのかかわりに気づく児童が増えてきた。また、気づきを伝え合う活動を重視して学習を進めており、それぞれ調べたことを聞き合うことで友達の発言も貴重な情報であることに気づいている。こうした学習を通して、社会的な見方や考え方が次第に育ち、身の回りの社会的事象への関心も高まっている。本単元を通して、学んだ知識と新しい知識を活用して説明する力を育て、社会的事象と自分たちの生活とのかかわりについて気づかせたい。そして、自らの生き方について考え、より良い方法や手段を見つけようと主体的に取り組む児童をめざしていきたい。

(3) 本時に向けた教材研究

本時は、東日本大震災発生直後、岩手県釜石市の沿岸部にある9つの小中学校の99.8%の児童生徒が避難して助かったという「釜石の出来事」¹を事例として取り上げ授業を行っていく。この出来事の事例から、自分ならどう行動するか考え他者との話し合いを通して、災害時によりよい判断をするためには、それぞれの立場を考えながら、事前に家族防災会議を行うことの大切さに気づかせたい。

東日本大震災で、町や人々へ甚大な被害をもたらしたのは、発生後に起きた大津波である。3月11日14時46分に地震が発生し、その1分後に三陸海岸沿いに大津波警報が発令された。地震による大きな揺れ、道路や建物の倒壊、家具や窓ガラスなど身の回りのものが崩れ落ちてくる中、釜石市に波高10mの大津波が到達したのは、15時15分であった。地震発生から約30分間という限られた時間で、現在の状況を把握して、避難をするために1人1人がよりよい選択を迫られた。その時に、岩手県の発表では、釜石市全体の避難率は97.4%、小中学生の避難率は99.8%であった。授業では、地震発生時の状況と市と小中学生の避難率の違いに気づかせることで、どうして、大人より子どもの方が避難できたのか疑問を持たせ、本時の学習問題へ繋げていく。そして、「釜石の出来事」での事例を取り上げ、その時自分ならどのように判断するのかを考えさせたい。事例として「避難の最中に、保護者が車で迎えに来た時、保護者と帰るか、みんなと避難をするか」を考えさせていく。その時、災害対応カードゲーム教材「クロスロード」^{※2}の手法を取り入れた活動を行う。さらに活動の意図や目的を明確にするために、NHK学校放送「シンサイミライ学校」を視聴する。そうすることで、児童自らが主体的によりよい行動を選択し、違う意見の児童と話し合う活動へと導いていきたい。

児童の普段の様子から、保護者と一緒に帰ることを選択する子が多いと予想される。北陸地域には「津

※1 震災当初「釜石の奇跡」と言われていたが、児童生徒の行動は平日頃からの訓練活動や防災教育の学びを活かし、自らが避難行動は奇跡ではなく教育の成果によるものとして、現在「釜石の出来事」と言われている。

※2 災害対応カードゲーム教材「クロスロード」は、大地震の被害軽減を目的に文部科学省が進める「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」の一環として開発されたもの。

波てんでんこ」といういい伝えがあることを紹介し、その意味を掲示する。さらに、意見を選択する際、ペアでホワイトボードを活用して話し合いで出てきた意見を書くようにする。そうすることで、ペアの友達との対話を通して自分の考えを明確にして、意思決定をしやすくすることができる。さらに、個々の話し合いの様子や書かれた内容を把握したり、違う意見の児童同士で意見交流を交流させたりすることで、スムーズな話し合い活動へ促すことができると考える。話し合いを通し、思考の深まりを確認するために、話し合い活動後、ワークシートに再度自分の考えをまとめる。その後、実際に「釜石の出来事」でどのようなことが起きたのか資料をもとにしながらか知らせ、災害時には、迎えに来た家族の心情を考えどのようにすることが大切か考えさせたい。その後、「シンサイミライ学校」の後半を視聴する。その時に、自分だけでなく、おじいさん、お母さんの立場で、津波時の避難について考えさせ、それぞれの立場を考えながら、事前に家族防災会議を行うことの大切さに気づかせたい。本時の学習で学んだことをもとにして、家族で話し合ってくるように伝え、次時の学習へ繋げていくことにする。

児童の思考の深まりを見取るために、学習の終わりのまとめとして、「事実」と「考え」を意識させるようにする。調べる学習の際、問題に対する「結論」を支える根拠を「事実（データ）」と「理由づけ」に分けて、3つの要素を構造化したワークシートに考えをまとめさせる。具体的には、学習を通して学んだことを、主張（C）と事実・根拠（D）を関係づける理由（W）を書く。ここに、その子なりの考え（意見）が表現される。こうした活動を意図的に取り入れることで、単元を通して1時間1時間の学習の歩みを統合して、自分の考えを再構成し、単元のつながりや自己の成長を実感することができる。と考える。

3 小単元目標

◎地域社会における防災にかかわる諸活動について、地域の諸機関や地域の人々の活動の工夫や努力について理解し、諸活動に関心をもち、それを意欲的に調べ、地域社会の人々の安全な生活の維持について地域の一員として考えようとしている。

○地域の人々の生活における防災にかかわる諸活動について学習問題を見だし、安全を守るための関係機関やそこで働く人々の工夫や努力について見学、調査したり、具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて追究する。これらの関係機関やそこで働く人々の働きが、地域の人々の安全な生活の維持と向上に役立っていることについて思考・判断したことを適切に表現している。

4 小単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
<p>① 地域社会における災害から人々の安全を守るために働く機関や人々について、関心をもって調べようとする。</p> <p>② 地域社会の一員として、災害から人々の安全を守るための活動に、自分から取り組みに協力しようとする。</p>	<p>① 地域の人々の防災にかかわる諸活動についての学習問題を見だし、学習問題の予想や、学習計画を考えて表現している。</p> <p>② 地域社会における防災にかかわる諸活動について、これらの関係機関やそこで働く人々の働きが、地域の人々の安全な生活の維持と向上に役立っていることについて思考・判断したことを適切に表現している。</p>	<p>① 地域社会における防災にかかわる諸活動を行う関係機関やそこで働く人々の働きを、観点を決めて聞き取り調査や見学を行い、具体的資料を活用して、必要な情報を集めて読み取っている。</p> <p>② 調べたり、考えたりしたことを、絵地図や表などの資料にまとめている。</p>	<p>① 地域社会における防災にかかわる諸活動について、防災活動にかかわる地域の諸機関や地域の人々が、災害時に被害を減らせるように工夫や努力をしていることを理解している。</p> <p>② 地域社会における防災にかかわる諸活動について、防災活動にかかわる地域の人々は、緊急時には相互に連絡を取り合っており、協力していることを理解している。</p>

5 指導と評価の計画（全10時間）

学習過程	時数	○主な学習活動・内容	評価基準と評価方法
つかむ	1	○普段の避難訓練のことを思い出して、訓練のときに気を付けていることについて話し合う。 ○なぜ、避難訓練を頻繁にやるのか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地震によって、どのようなことが起きるのでしょうか。</div>	【関①】 普段学校で、避難訓練を行う意味について、関心をもとうとする。 【技①】 鳥取大震災や阪神・淡路大震災、東日本大震災の写真から、大地震が起きたらどんな被害が起きるのか読み取る。 (コンセプトマップ・ノート・発言)
	2	○鳥取大学で地震に対して、どのような取り組みをしているか知る。 ○本学校や他の小学校の様子などでの地震への備えについて話し合う。 ○これから調べることや調べ方、まとめ方について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習問題 地震からくらしを守るために、市や地いきの人々は、どのようなことをしているのでしょうか。</div>	【思判表①】 市や地域の地震対策やくふうについて、学習問題を考えようとしている。 (コンセプトマップ・ノート・発言)
	3	○単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 ○学習問題について、予想を立て、実際に調べる計画を立てる。 <調べること><調べ方><まとめ方>について	【思判表①】 市や地域の地震対策を調べる学習問題について予想したり、調べ方を考えたりしようとしている。 (コンセプトマップ・ノート・発言)
調べる	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地震からくらしを守るために、鳥取市ではどのような取り組みをしているのでしょうか。</div> 市の地震対さくについて調べよう ○市役所の係長さんの話を読んでわかったことを話し合う。 ○避難所の場所と起きそうな災害の場所の図から、鳥取市で起きる災害の種類と、避難場所や災害の場所の位置との関係を読み取る。 ○鳥取市は市民に呼びかけている地震や津波の避難の仕方と避難所看板と関連して読み取る。	【技能①】 資料から、地域でどのような災害が起きるのか、避難場所、災害の場所の位置との関係から読み取っている。 (観察・発言) 【知・理①】 鳥取市では、災害時に被害を減らせるように避難場所の設置や広報活動などを通して、減災への工夫や努力をしていることにきづく。 (コンセプトマップ・ノート・発言)
	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地震からくらしを守るために、地いきでは、どのような取り組みをしているのでしょうか。</div> ○避難訓練の写真をよく見て、気がついたことを話し合う。 ○地域の取り組みの写真と説明を読んで、様々な立場の人々が自分の地域の避難行動計画を立てる理由を考える。	【技能②】 「地域の公民館長の話」から、東日本大震災以降、地域の人たちが自ら避難行動計画を立てることの大切さに気づいたことを読み取っている。 (観察・発言)

	6	<p>鳥取市の自主防災組織では、地いきの人々を守るために、どのような活動を行っているのでしょうか。</p> <p>○9月10日防災の日の記事の写真をよく見て、気がついたことを話し合う。 ○「防災コーディネーターの方の話」を読んで考えたことを話し合う。 ○自主防災組織の詳しい仕事について資料から読み取る。</p>	<p>【思判表②】 自主防災隊と市役所、消防署や警察や自衛隊などがお互いに協力し合って、自分たちの地域を守ろうとしていることの意味を考えている。 (観察・発言)</p> <p>【知・理②】 地域社会における防災にかかわる諸活動について、防災活動にかかわる地域の諸機関や地域の人々は、緊急時には相互に連絡を取り合って、協力していることに気づく。 (コンセプトマップ・ノート・発言)</p>
まとめる	7 8	<p>地震からくらしを守るための、鳥取市や地いきの取り組みについてまとめてみましょう。</p> <p>○疑問に思ったことやもっと調べたいことを書く。 ○学習問題についてまとめる。 ・鳥取市は、地域の協力を得て、地域の避難行動計画を立てる。 ・鳥取市も自主防災組織も防災訓練を行っている。お互いに協力し合っている。 ・自主防災組織では、日頃から訓練を行っている。新しい消防設備などは、鳥取市の補助を受けながら購入している。 ○まとめができあがったら、友だちと見せ合ったり発表し合ったりして、よりよい表現に修正する。</p>	<p>【思判表②】 鳥取市や自主防災隊の相互協力関係について思考・判断したことを適切に表現している。 (コンセプトマップ・ノート・発言)</p>
いかす	9 本時	<p>災害の場面で、自分たちはどのような行動をするといいいのでしょうか。</p> <p>○釜石市全体の避難率と釜石市の児童生徒の津波からの避難率を比較して気づいたことを発表する。 ○NHK「シンサイミライ学校」を視聴し本時の学習の方法を知り、クロスロードゲームを行い、避難場面を想定して話し合う ○災害時には、迎えに来たおうちの人の心情を考慮のようにすることが大切か資料をもとにして考える。</p>	<p>【思判表②】 「釜石の出来事」の事例から考え話し合うことを通して、それぞれの立場を考えながら、事前に家族防災会議を行うことの大切さに気づく。 (ノート・発言)</p>
	10	<p>地震からくらしを守るために、自分でできることはどんなことでしょうか。</p> <p>○各家庭で話し合ってきたことを発表し合う。 ○友達の発表を聞き、自分でできることはどんなことか、しおりにまとめる。4年1組防災のしおりを作成する。</p>	<p>【技能②】 今まで学習したことや家族防災会議、友達との発表を参考にし、防災パンフレットにまとめることができる。 (発言・作品)</p>

6 本時の学習について

(1) 本時の目標

- 「釜石の出来事」の事例から考え話し合うことを通して、それぞれの立場を考えながら、事前に家族防災会議を行うことの大切さに気づく。

(社会的事象への思考・判断・表現)

(2) 学習の準備

地震からくらしを守る自作資料、ホワイトボード、釜石市の避難率グラフ

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◆個の探究への支援 ◇協同的な学びへの支援 ◎評価)

学 習 活 動	教師の意図と支援および評価
<p>1. 前時の学習をふり返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>2. 釜石市全体の避難率と釜石市の小中学校の避難率の違いを見比べ、気づいたことを発表する。</p>	<p>○鳥取市では、公助・共助でどのような取り組みがなされているか掲示物等を参考にして前時までの学習をふり返り確認する。</p> <p>○地震発生時の状況と釜石市と小中学生の避難率の違いに気づかせることで、どうして、大人より子どもの方が避難できたのか疑問を持たせ、本時の学習問題へ繋げていく。</p>
<p>災害の場面で、自分たちはどのような行動がよいか考えて、友達と話し合おう</p>	
<p>3. 「釜石の出来事」での事例を取り上げ、その時自分ならどのように判断するのかを考える。</p> <p>(1) NHK「シンサイミライ学校」を視聴し、本時のめあてと学習の仕方を知る。</p> <p>(2) 災害の場面を想定し、どの行動を取るか選択して、理由をペアで話し合う</p> <p>(3) 違う意見の友達と意見交流をする。</p> <p>(4) ワークシートに自分の考えをまとめる。</p>	<p>○災害の場面をシュミレーションして考えることで、児童自らが主体的によりよい行動を選択し、違う意見の児童と話し合わせたい。</p> <p>◆活動の意図や目的を明確にするために、NHK 学校放送「シンサイミライ学校」を視聴する。</p> <p>◆両方の選択が出るように、北陸地域には「津波てんでんこ」といういい伝えがあることを紹介し、その意味を掲示する。</p> <p>◇ペアの友達との対話を通して自分の考えを明確にしたり意思決定しやすくしたりするために、意見を選択する際、ホワイトボードを活用し、自分の選択を書き込むように声かけを行う。</p> <p>◇違う意見の児童同士で意見交換する際、スムーズな話し合い活動へと促すために、教師はホワイトボードに書かれた内容を把握し、全体や児童同士の意見を紹介していくようにする。</p>
<p>4. 「シンサイミライ学校」の後半を視聴して、実際に「釜石の出来事」でどのようなことが起きたのか知り、再度、どのような行動が必要か自分の考えを深める。</p>	<p>○実際の災害時の対応で、迎えに来た家族の心情も大切にしながら、どのようにすることが大切か考えさせる。</p> <p>◇家族防災会議を行うことの大切さに気づかせるために、番組を視聴する際、自分だけでなく、家族全員の立場で、津波時の避難について考えさせるように声かけを行う。</p>

◎災害時によりよい判断をするためには、それぞれの立場を考えながら、事前に家族防災会議を行うことの大切さに気づかせたい。(発言やノート)

次時の課題「学んだことを活かして家族防災会議を開こう

5. 次時の学習のめあてを知り、本時を振り返り、ワークシートにまとめを書く。

○課題に対する「結論」を支える根拠を「事実(データ)」と「理由づけ」に分けて、3つの要素を構造化したワークシートに考えをまとめさせる。

◇次時の学習で、家族防災会議で話し合ったことについて、みんなで発表し合うことを伝え、週末に児童が家族防災会議の司会者となり家族で話し合うように、声かけをする。

次時の学習

家族防災会議で話し合ったことを発表し、友達の発表や今までの学習をふり振り返り、自分でできることはどんなことか、しおりにまとめ、「4年1組防災のしおり」を作成する。